

2020年度 倫理委員会（第1回定例会）の議事録

場所：WEB 会議に変更のため、各拠点から参加

参加者：井内祥人、勇秀忠、稲垣浩通、岩尾雄四郎、小柳嗣雄、佐藤光雄、清水富夫、
下津義博、末松正典、永岩研一、西井康浩、堀田源治、松井法彦、諸藤明子

オブザーバー：岩見（大分）、村岡（大分）

欠席者：伊藤整一（オブザーバー）

2020/06/13

報告書作成：西井康浩

概要

(1) 意見交換

- ① 「今後の倫理委員会の活動のあり方」について、事前に意見収集を行ったまとめを参考にしながら、意見交換を行った。特に著作権の扱いについては注意が必要であることを確認した。
- ② 今回は初めての試みとして、E-mail 会議とした。
- ③ 会議後は ZOOM を用いた情報交換会を予定していたが、図らずも会議途中から ZOOM を用いた Web 会議形式を併用し、審議を継続させた。

(2) その他の審議事項

- ① 次回研究事例発表については、本日でできなかった「公共事業の入札における課題」を、永岩委員より引き続き報告していただく。
- ② 各委員で持ち回り議案については特に要望はなかった。
- ③ 第2回については **9月5日（土）** に開催することとなった。詳細は、タイムライン（スケジュール）に記載されておりである。
- ④ 新規倫理委員の候補者として、大分県支部から2名が紹介され、途中から Web 会議に参加された。
岩見裕子氏：生物工学部門、大分大学技術職員、女性
村岡馨氏：建設部門、日本地研大分所長、男性
- ⑤ 熊本県支部推薦者は、城戸氏（女性）とのこと。

1. タイムライン（スケジュール）

2020年度第2回定例会は当初の9月26日（土）を変更し、**9月5日（土）13:30～17:00、九州本部が入居する博多石川ビル3F貸会議室**を予定。

第3回は11月14日、第4回は2021年2月6日を予定。

2. 今後の倫理委員会の活動のあり方

事前に調査していた「今後の倫理委員会の活動のあり方」について、全員で意見交換（ディスカッション）を行った。

(1) 自己啓発型活動から情報発信型活動への転換

① テキスト

【事前に寄せられていた意見】

- 九州版倫理テキストの整備は、委員や講師に共有できるという観点から重要であり、当委員会の喫緊の課題でもある。
- 講師が九州版倫理テキストを使うことで、講習がある一定レベルで担保される。
- 九州版倫理テキストの作成に当たっては、著作権法との関係に注意が必要となる。
- 九州版倫理テキストの暫定版から完成させ、順次著作権問題に配慮させながら完成版へ近づける。
- 経験の浅い人にもわかりやすいテキストや講義資料作りに心掛ける必要がある。
- 初版倫理テキストは技術士会会員や大学等の講義で配布し、運用してみて意見を聞き、改訂する段階で販売について検討する。
- 技術者倫理の基礎や技術士倫理綱領の部分が片手落ちになっている。
- 多様な倫理観を許容し、Dignity（尊厳）の高い情報を提供できるようになるとよい。
- 発刊後も常に内容の見直しが必要である。
- 九州版テキストの他にもテキスト内容を纏めた p p t スライドの外部講演版を、特に音声付きと音声無の両方で整備しておくといよい。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 著作からの引用は題意が変わらないような数行程度はよいが、数ページとなる場合には駄目である。
- ◆ 不祥事の引用は注意すべきである。
- ◆ 先の化血研の報告にあった兵庫医科大学の引用については、先方に確認してみる。
- ◆ 専門委員会のようなどちらかと言えば内部資料のようなもの、しっかりした許可が必要である。
- ◆ 講義資料や新人講師用テキストに活用する際、デジタル化も検討しておくべきである。
- ◆ テキストも随時見直しが必要である。
- ◆ 著作権を扱う団体（具体名を失念）に相談してみる。
- ◆ 10月開催の全国大会の技術者倫理情報交換会の席で、九州本部からの議題の一つとして上程してみる。

② 講師

【事前に寄せられていた意見】

- 当委員会に打診された倫理講師派遣に際しては事前に講師登録（ノミネートのリスト）し、そこから状況に合わせて推薦してゆく。
- 新規委員（推薦者や希望者の参加も含め）や講師候補に対し、技術者倫理の基礎や技術士倫理綱領の基本的な相互学習が大切であり、これを年計画の中に加える。
- 各県支部での若手技術士への技術者倫理の啓発活動の具体的施策作成において、課題抽出と倫理委員会でのフォローの整合性についての議論が必要である。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 技術士倫理綱領の重要項目にスポットを当て、そこを集中的に研究することも一考である。

③ 通信技術の活用

【事前に寄せられていた意見】

- Web会議の活用は遠地からの参加を容易にするツールであり、今後取り入れるべきである。
- 統括本部倫理委員会のリモートでのC P Dの受講を取り入れる。
- WEB を利用しての講習・講義はますますニーズが高まっているため、講習・講義のLIVE 配信や録画配信も必須となる。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 今回のようなリモート会議の手法は、情報交換のツールとして評価される。
- ◆ 会議による交通費が抑えられ、自宅ならびに職場と言ったリラックスできる環境からの参加は、別の意味で有効である。
- ◆ 九州本部でもリモート会議を推薦するとともに、会議用のインフラを整備していただけるよう、働きかけることも必要である。
- ◆ 今回使用した「ZOOM」はインターネットに出ている限り、セキュリティで問題は残るが、利便性やコストパフォーマンスの観点から評価できる。

(2) 新規倫理委員の増強と既存委員との世代交代

① 新規委員

【事前に寄せられていた意見】

- 力量を含め講師を担保する意味でも何らかのサポート的なものが必要と考えるので、カリキュラム講習は妥当と考えられる。
- 各支部からの推薦はそのまま受け入れ、選定基準は各支部に任せる。
- 新規委員には、決して「若手・青年」にこだわる必要はなく、「意欲のある方」を優先して選ぶべきと考える。
- 講師経験の少ない人で希望する人は、何かしらの講習を受けられる仕組みがあれば安心して講師に挑戦し易くなる。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 女性委員を増やす必要がある。
- ◆ 今回 Web 会議に、オブザーバー扱いとして大分県支部より岩見氏（女性）、村岡氏（男性）の参加をいただいた。
- ◆ 熊本県支部が推薦している城戸氏も女性である。

② 新旧交代

【事前に寄せられていた意見】

- 新旧の委員と一緒に活動し、さらなる活動の活性化を図る過程で相互に知見吸収が可能となる。

- 委員会の維持発展には委員の新旧交代は重要なポイントの一つであり、新陳代謝が積極的に進むような組織体制であるべきである。
- 交代した委員のオブザーバーの参加は大いに賛成である。

【E-mail & Web 会議での意見】

◆ 特になし。

③ 旅費関係

【事前に寄せられていた意見】

- 新規メンバーの旅費は、倫理委員会からの支給が望ましいが、難しい場合は県支部からの支給も検討してもらう必要がある。
- 基本として交通費支給は委員のみとし、それ以外は自費、県支部負担とする。
- オブザーバーには、自費参加でお願いする。
- 新規メンバーの旅費については、合同役員会議又は支部長会議で議論してもらうのも一考である。
- 委員交通費については、WEB 会議の活用と併せて考えていくよい。
- 委員会が WEB（メール）での実施となることで、時代に合った委員会の在り方を検討するいい機会となり、オンラインで参加できると交通費の問題もクリアできる。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 年 4 回の定例会を Web 会議に振り分け、旅費の節約に結び付ける。
- ◆ 余裕ができた旅費の活用として、新規委員の参加費に充当させることも一案である。

(3) 大学・高専への講師派遣要請への対応

① 講師の推薦

【事前に寄せられていた意見】

- 年齢等はいくまでお願いする側（大学等）が了承すれば問題ない。
- 県支部や教育機関等への派遣について、倫理委員会は認証機関でないが、九州本部の依頼を受けて講師の推薦を出す検討を当委員会が担当することは可能と考える。
- 非常勤講師はいくまで技術士個人に依頼されることであり、日本技術士会が派遣講師の実績を保証する必要はない。
- 今後も倫理委員会には情報や人的なサポートの存在でいて欲しい。
- 大学や高専、その他からの講師派遣要請に対応する場合、人選は当倫理委員会で最適任者を推薦することになると思うが、その際、高齢者に対する制限は不要と思う。
- 九州本部倫理委員会所属の講師だと、公的にも認められるのではないかと考える。
- ミネートした講師可能な方へ打診し、適任者がいない場合、その地域の県技術士会にて別途探す必要がある。
- 「倫理委員会が大学・高専からの講師派遣要請に対応する窓口」となることと、「委員会委員のメンバー」は別である。

- 倫理委員会で講師養成をするためには、該当する資格・学位取得や現在行われている講義の聴講なども考える必要がある。
- 九州版倫理テキストを使うこと独善性を回避し、可能であれば講義を二人以上で実施すること後継者の育成も図られる。
- 九州本部倫理委員会所属の講師であることは強調してよいし、倫理委員会所属 + 九州版テキストのセットが他機関との講師との差別化につながる。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 現在、大分大学や鹿児島大学で講義をされていると思いますが、今回このテーマが議題にあげられたのは「講師定年への対応」も一つのきっかけと理解しています。そもそも、「我が会に対して」大学から要請があっているのでしょうか。若しくは、講師側から「技術士会九州本部に倫理委員会というのがある・・・」と紹介されているのでしょうか。
- ◆ （上記質問に対して）11年前に大分大学で始めた時は 個人的に紹介をいただき始めました。今年から大分高専での講義を始めたのですが こちらは技術士会の大分県支部長からのご紹介でした。
- ◆ ご回答、ありがとうございます。個人的に依頼され、続けてこられた講師の方が「後任に」と紹介するにあたり、当倫理委員会が適性を担保することが求められるので質問させていただきました。また、当委員会の行動計画として、広く「倫理講義請け負います」と発信するのであれば、議題 1) 2) 3) すべてに関係すると思われるため、質問させていただきました。
- ◆ （上記質問に対して末松委員からの補足）倫理委員会への講師打診の最近の例は、本年下期から開始予定の福岡工大からの倫理授業対応要請の例があると思います（2019.12.19、3名訪問（西井、小柳、末松））。大学からの要望を確認後、倫理委員各位へ打診の結果、2名で対処することとなった例。同様の依頼が、各県でなされた場合には、倫理委員会以外の方にも打診する必要性の余地がないか、と考えます。宮崎、鹿児島、北九州地区では（他にもあるかもしれませんが）、すでに授業を担当されている方もおられますし、または個人的に学習している方もいるかもしれませんので。

② 講師の力量

【事前に寄せられていた意見】

- 一定の能力がないと無理が生じると思われるので、技術士取得者と限定するのか妥当かの賛否（意見集約）を問うてはいかかが。
- 倫理委員会が推薦した講師の力量を信頼し、任せることで問題はないと思われる。
- 派遣する講師の力量は、個人責任でよいのではないか。
- 実績や力量等について補償や担保することに関しては、経験の少ない派遣講師に対して、九州版倫理テキストやカリキュラム講習によるサポートを行うこと、講師経験が増えるまでの期間においてベテラン講師と組んで講義を行うことで経験値を増やすことがよい。
- 倫理綱領を持つ技術士法を基礎とした人材であり、加えて倫理委員会所属であることで力量の保証となるのではないか。

【E-mail & Web 会議での意見】

- ◆ 特になし。

今後の事例研究案

No.	事例研究の課題	事例の分類	担当	発表日
1	新幹線台車亀裂事故	予防倫理	井内	2019/2/9
	(続) 新幹線台車亀裂事故			2019/6/29
2	化血研究所偽装事件	予防倫理	小柳、勇	2019/9/21
	(続) 化血研究所偽装事件			2019/11/30
3	大企業隠蔽体質	予防倫理	清水	事前調査の依頼
4	公共事業の入札における課題	予防倫理	稲垣、永岩	2020/2/1 2020/9/5 (予定)
5	技術者倫理の教育	志向倫理	佐藤、堀田	事前調査の依頼
6	データ改竄への対応	予防倫理	下津	
7	地球環境問題（奄美大島における動物の権利訴訟）	志向倫理	末松、井内	事前調査の依頼
8	研究不正	予防倫理	堀田、岩尾	事前調査の依頼
9	技術士のアイデンティティー	志向倫理	西井	
10	PL 裁判事例	予防倫理	小柳、末松	
11	ある電力技術者の生きざま	志向倫理	井内	

上記のスケジュールで、担当者は準備を進めて頂きたい。

回覧および承認

今回は全員に承諾をお願いしております。

名前	役職	日付
井内 祥人	副委員長	6月16日
勇 秀忠	委員	6月15日
稲垣 浩通	委員	6月15日
岩尾 雄四郎	委員	6月15日
小柳 嗣雄	副委員長	月 日
佐藤 光男	委員	6月15日
清水 富夫	委員	6月15日
下津 義博	委員	6月16日
末松 正典	委員	6月14日
永岩 研一	委員	6月15日
西井 康浩	委員長	6月14日
堀田 源治	委員	6月15日
松井 法彦	委員	月 日
諸藤 明子	委員	6月19日

最終承認者 委員長
西井康浩

日付
6月20日